

2005年8月2日 電話会議

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

2006年3月期第1四半期業績概況資料

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

広報IR部 横山一樹

: 03-3248-2235

E-mail: yokoyamakz@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

中間期・通期とも営業利益目標は据え置き

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

2006年3月期第1四半期連結業績と中間期・通期業績見込

単位:金額=億円 (未満切捨て)	1 Q		中間期			通期		
		前年比	(E)	当初(E)比	前年比	(E)	当初(E)比	前年比
売上高	1,163	+51	2,400	-20	+115	4,818	-42	+203
営業利益	37	-8	78	-	0	163	-	+28
経常利益	36	-7	76	-	+2	157	-	+28
当期純利益	-3	-31	28	-	-14	73	-	+14

注:(E)は今回発表した見込、当初(E)は5月19日に発表した見込

1.売上高

第1四半期は前年比5%増収。加工食品、畜産、低温物流が計画並で推移し増収。水産は横ばい、不動産は減収。

中間期と通期は見込を下方修正。これは、事業環境が依然厳しい水産と、米国産牛肉の年内輸入再開見通しが流動的となり、米国の「てんぐ」を引き下げたことが要因

2.営業利益(セグメント別は当期から「グループ経営運営費用」を配賦、前年も遡及修正して比較している)

第1四半期は不動産の土地分譲が前年比減少したこともあり、総合で前年比減益となったが、加工食品と低温物流は計画線を上回るペースで前年比増益に。

水産は「かに」などの損失在庫整理を優先し営業赤字が続く。

中間期、通期は水産を下方修正するが、加工食品、低温物流、不動産が当初見込を上回り、総合の中間期・通期目標は据え置く。

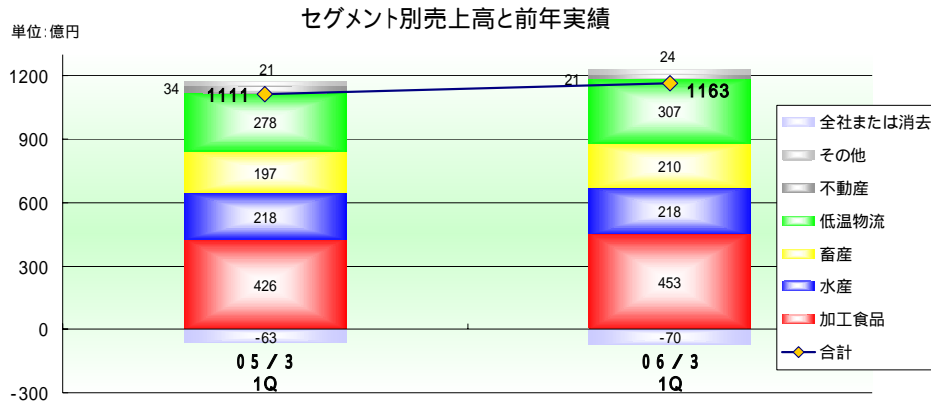
3.経常利益・当期純利益

第1四半期で減損会計の適用による損失を35億円特別損失に計上したが、当初見込には織り込み済みで中間期と通期は変更なし。

加工食品は計画を上回る、水産は売上・利益を下方修正

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **N**ニチレイ

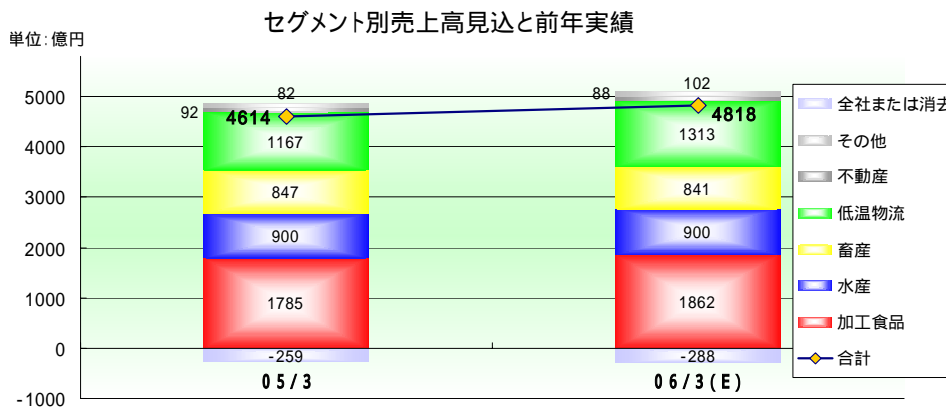
セグメント別売上高と営業利益(その1)



(以下、グラフの金額単位表示未滿は四捨五入し一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている)

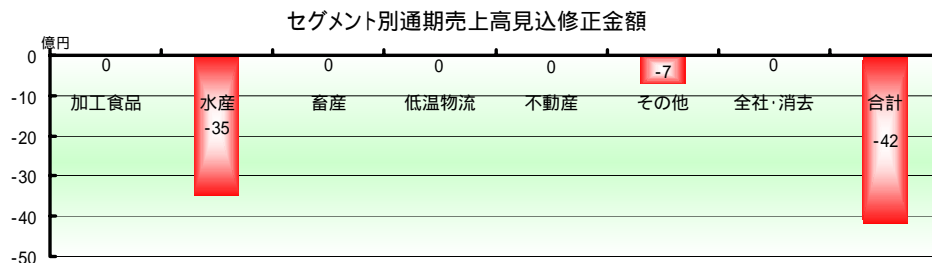
1.加工食品

第1四半期の売上は前年落ち込んだチキン加工品の回復に加え、ハンバーグやコロケ、農産品などが好調に推移し7%の増収。営業利益は商流費が増加したものの、原料価格低下とグループ内生産工場の操業度改善やラインコストダウンにより増益に。アセロラはCVS向けペットボトル飲料を今春発売、前年を上回るペースで推移。中間期・通期ともに営業利益を上方修正。



2.水産

第1四半期の売上は横ばい、営業利益は減益。主力の東南アジアえびは価格低迷が続き取扱を絞り込む、また、かになどの損失在庫整理を優先して進めた。事業環境の改善が遅れており、売上・営業利益の見込は下方修正。



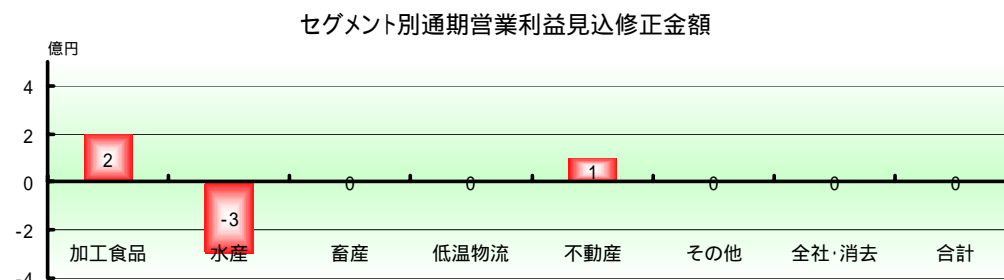
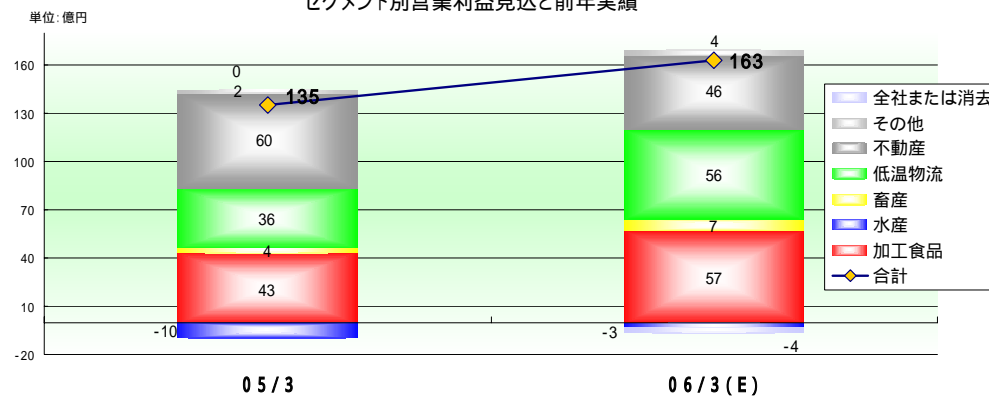
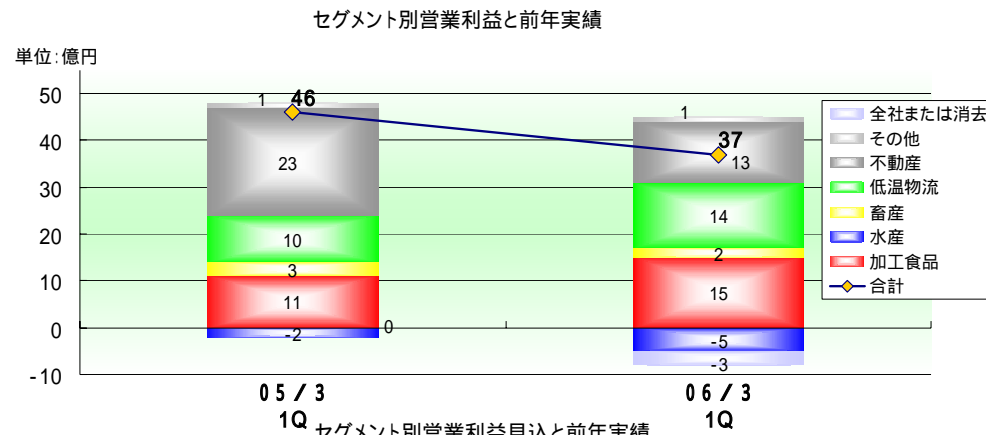
3.畜産

鶏肉、豚肉、牛肉いずれも前年比増収となったものの、利益は前年が豪州牛の一部部位の高採算で利益水準が高かったため減益。 2

低温物流は大幅増収・増益、てんぐは売上を下方修正

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

セグメント別売上高と営業利益(その2)



4.低温物流

第1四半期は、物流ネットワーク事業が前年度新設稼働センターの貢献で大幅に増収・増益。地域保管事業は着実な集荷策の効果に加え、苦戦していた関東地区の在庫量が回復をはじめ。地域保管事業の売上高は前年度並だが、昨年、組織再編で食品部門を切り離し売上が減少した影響を考慮すれば前年比増収を確保。営業利益は実質増収効果に採算の改善が加わり大幅に増益。通期でも売上・営業利益ともに当初見込み達成へ。

5.不動産

第1四半期は前年と比べ土地分譲案件が大幅に減少し、減収・減益。

6.その他

米国のてんぐは 米国産牛肉輸入の年内再開見通しが流動的となったため通期見通しを引き下げ。

調理冷食はチキン加工品の回復により大幅増収

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

第1四半期冷凍食品売上高

1. 冷凍食品全般

前年比9%の増収。調理冷食は家庭用・業務用合計では9%、農産加工品は7%の増収。中華惣菜や水産調理品が減収となったものの、前年落ち込んだチキン加工品の回復に加え、ハンバーグやコロッケなどのカテゴリーが好調に推移し全体では増収に。

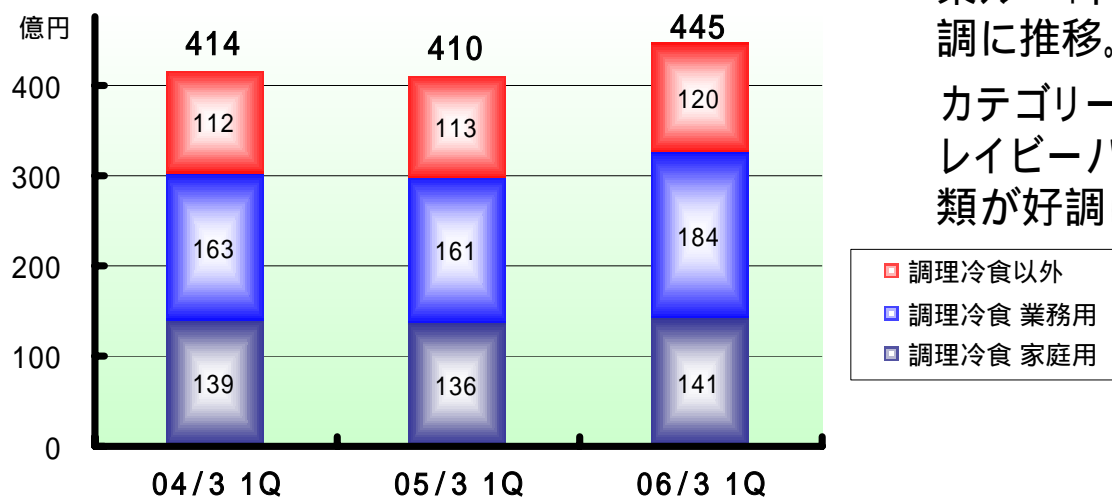
2. 調理冷食

家庭用：前年比3%の増収、「本和風若鶏から揚げ」などチキン加工品の回復や重点商品の「甘えびシューマイ」が増収に寄与した。「お弁当にGood!」シリーズは新商品の「甘えびクリーミーフライ」が好調に推移したものの、シリーズ全体の売上は前年をやや下回った。

業務用：前年比15%の増収。チキン加工品の大幅回復が寄与したほか。ハンバーグやコロッケ、惣菜ルート向けの「ほっとするおかず」シリーズが順調に推移。

カテゴリー別にはチキン加工品が大幅に回復、「グレイビーハンバーグ」などの食肉加工品やコロッケ類が好調に推移。

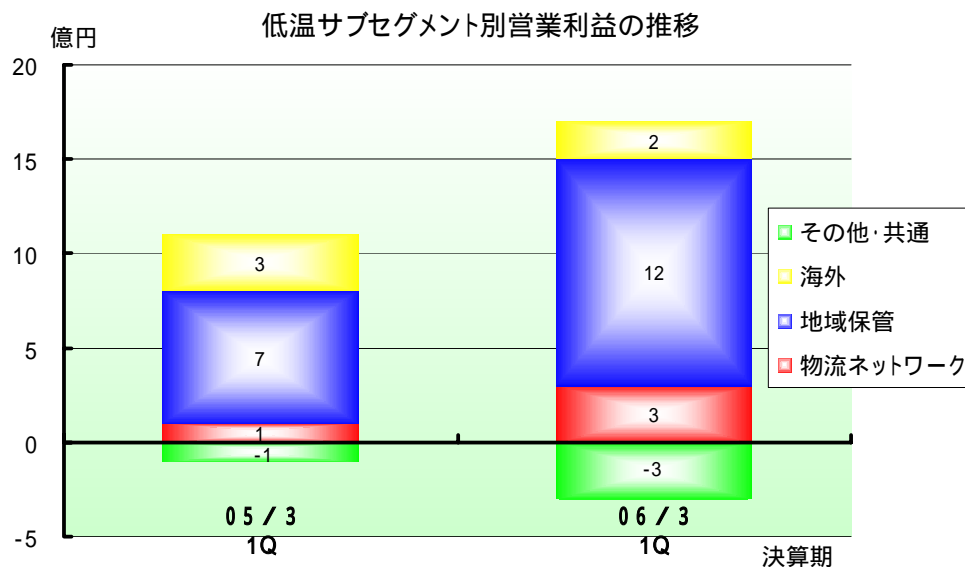
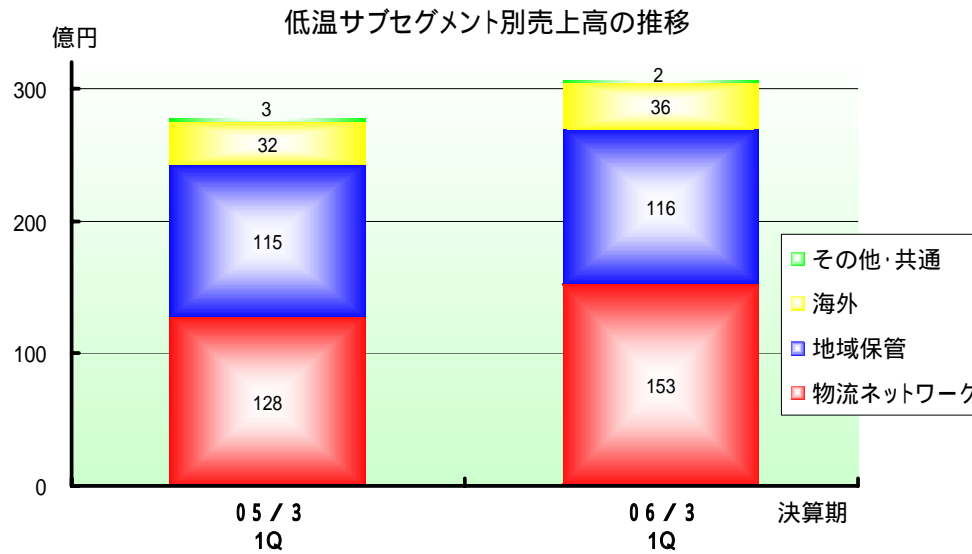
冷凍食品売上高の推移



低温物流は増収増益、地域保管の回復が鮮明に

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

低温物流事業の対前期比増減の要因



1. 物流ネットワーク

前年度に新設稼動した7拠点8箇所の物流センターが大きく貢献し増収・増益。

運送部門は前年度新設稼動センターの効果で増収となるが、車両の効率活用が計画どおり進まず利益目標をやや下回る。

2. 地域保管

西日本地区をはじめ各地域ごとに着実な集荷策が進み取扱量が増加。米BSEの影響で苦戦していた東京港湾地区では在庫量が回復をはじめ、昨年、九州地区の食品事業を売却した減収影響を吸収して売上高は前期並みを確保。

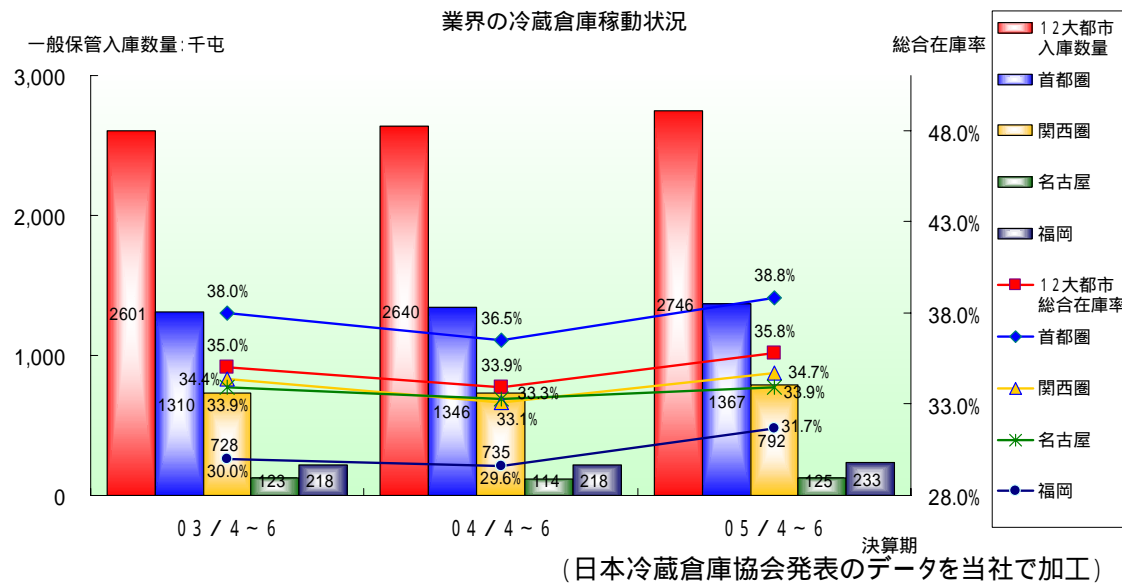
利益面ではローコスト運営策が進み増益に寄与。例えば関西地区の変形労働時間制の導入など。

3. 海外

増収・減益。運送事業は新規顧客獲得が進み増収・増益となるも、昨年来の大口荷主の撤退や保管料率の下落による減益をカバーできず。

12大都市冷蔵倉庫の総合在庫率は業界以上の改善傾向

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

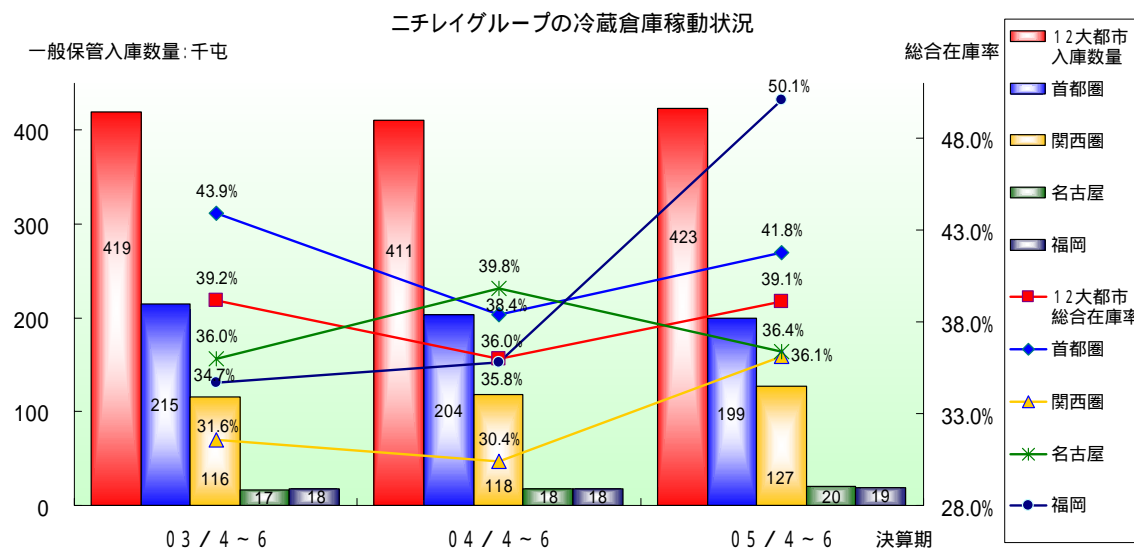


1. 業界の状況

水産物、農産物の輸入量は横ばいであつたが、畜産物は前年落ち込んだ鶏肉の回復と豪州産牛肉輸入量が伸びたことを受け、各地区の入庫量は増加。総合在庫率は改善傾向に。

2. ニチレイグループの状況

グループ全体の入庫量は増加。総合在庫率は関西圏・福岡をはじめ地域に密着した集荷活動の実施が奏効したことと、米BSEの影響で苦戦していた首都圏でも改善し、グループ全体では3.1ポイントの改善。



B / Sは季節要因で運転資金が増加し総資産が増加

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

06 / 3第1四半期連結バランスシートの変動要因

単位：億円（未満切り捨て）

科目	05/3	05/6	増減	
(資産の部)				
流動資産	1,088	1,130	+42	
固定資産	1,675	1,648	-27	
資産の部合計	2,764	2,778	+14	
(負債・資本の部)				
流動負債	933	1,048	+114	
固定負債	883	796	-87	
負債の部合計	1,817	1,844	+26	
少数株主持分	6	7	+1	
資本の部	940	926	-13	
(有利子負債)	1,119	1,125	+6	
科目	04/6	05/6	増減	
(設備投資額)	13	8	-4	
(減価償却実施額)	26	26	0	

【主な要因】

第1四半期は売上好調により売上債権が49億円増加。たな卸資産は季節要因により加工食品、畜産品は増加したものの、水産品は在庫圧縮が進み05 / 3比で27億円の減少、全体では4億円の減少となった。

減損会計の適用により土地16億円の減少。

季節要因による仕入債務の一時的な増加と減損会計適用に伴うリース資産減損勘定を19億円計上。

長期借入金返済により15億円減少したものの、季節要因による運転資金の一時的増加により前期末比で6億円増加。期末目標である1,000億円は変更しない。

第1四半期は主に維持保全投資を行った。

データ集

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

セグメント別売上高・営業利益の実績・見込・当初見込・前年実績

単位：億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	第1四半期			第2四半期			中間期				通期			
	06/3	05/3		06/3 (E)	05/3		05/9 (E)	当初 (E)	04/9		06/3 (E)	当初 (E)	05/3	
		新基準	旧表示		新基準	旧表示			新基準	旧表示			新基準	旧表示
(売上高)														
加工食品	453	426	-	487	458	-	940	940	884	-	1,862	1,862	1,785	-
水産	218	218	-	232	230	-	450	470	448	-	900	935	900	-
畜産	210	197	-	207	216	-	417	417	413	-	841	841	847	-
低温物流	307	278	-	338	300	-	645	645	578	-	1,313	1,313	1,167	-
不動産	21	34	-	18	19	-	39	39	53	-	88	88	92	-
その他	24	21	-	28	22	-	52	52	43	-	102	109	82	-
全社または消去	-70	-63	-	-73	-71	-	-143	-143	-134	-	-288	-288	-259	-
合計	1,163	1,111	-	1,237	1,174	-	2,400	2,420	2,285	-	4,818	4,860	4,614	-
(営業利益)														
加工食品	15	11	15	17	11	15	32	30	22	30	57	55	43	56
水産	-5	-2	0	-1	-2	-1	-6	-1	-4	-1	-3	0	-10	-6
畜産	2	3	4	1	0	1	3	3	3	5	7	7	4	8
低温物流	14	10	15	16	10	14	30	29	20	29	56	56	36	52
不動産	13	23	23	9	12	12	22	20	35	35	46	45	60	60
その他	1	1	2	-1	1	0	0	0	2	2	4	4	2	3
全社または消去	-3	0	-13	0	0	-9	-3	-3	0	-22	-4	-4	0	-38
合計	37	46	46	41	32	32	78	78	78	78	163	163	135	135

注：(E)は今回発表した見込数値、当初(E)は5月19日に発表した見込数値

：「新基準」は持株会社体制への移行による「グループ経営運営費用」の配賦に伴い、遡及修正した前年数値

：「旧表示」は遡及修正前の前年数値

当資料取扱い上のご注意

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

当資料に記されたニチレイの現在の計画、見通し、戦略等のうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に対する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。このため、これらの業績見通しのみにより全面的に依拠して投資判断されることは控えるようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の判断に基づき、常にニチレイが将来の見直しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のものが含まれます。

ニチレイグループの事業活動を取り巻く個人消費動向を中心とした経済情勢
および業界環境

米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動

成長戦略とローコスト構造の実現性

有利子負債削減の実現性

偶発事象の結果 等

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。